

# Nara Medical University

法人案内



公立大学法人  
奈良県立医科大学

# 医学の 力で社会に貢献

奈良県立医科大学は、昭和20年（1945年）4月に奈良県立医学専門学校として設立されました。昭和23年（1948年）に奈良県立医科大学（旧制）が開設、昭和27年（1952年）には新制大学として奈良県立医科大学医学部医学科が設置され、現在へと続いています。また、平成8年（1996年）には看護短期大学部、平成16年（2004年）には医学部看護学科が開設されました。このときより本学は医学部医学科、看護学科を擁する医科大学となり、以後着実に歩み続けています。

本学は、国公立や民間の研究機関と連携大学院協定を結んで広く教育・研究活動を行っています。また、世界で活躍できる医師の養成を目指して臨床英語教育に力を入れ、海外研究機関での研修などを行っています。

特色ある取組として、医学を基礎とするまちづくり、MBT（Medicine-based Town）構想を展開しています。これは、従来の医工連携が主に工学的知見を医学に応用するものであったのに対し、医学的知見を工学やまちづくりに活用しようというものです。医師が有する膨大な知識を、患者さんの治療だけでなく、医学的に正しい製品や住居、そしてまちづくりに関わるすべてのものに生かすべく、医学に基づいた社会貢献を目指しています。

本学は、よき医療人を育成する場、最善の医療を提供する場、そして大学職員並びに本学に関わるすべての人の拠り所となり活躍の舞台を提供する場でもあります。このような役割を改めて認識し、本学の責務を果たすべく取り組んで参ります。

理事長・学長  
細井裕司







### 職員数

全体 **2,551** 名

うち役員4名、教育職380名、  
医員476名、研修医81名、  
看護職1,136名、  
技術職・事務職等474名



### 学生数

学部学生 **1,032** 名

うち医学科689名、看護学科343名

大学院学生 **245** 名

うち修士29名、博士216名



### 決算

R4年度決算(単位:千円)

経常収益 **57,541,443**

うち運営費交付金収益5,052,131、授業料・入学金・検定料収益803,737、附属病院収益43,665,464、  
寄附金収益・受託研究等収益1,721,373、補助金等収益5,641,594、その他の収益657,144

経常費用 **56,570,689**

うち教育研究経費2,401,744、医薬品費17,658,861、診療材料費5,205,484、その他の診療経費  
8,019,190、人件費20,558,159、一般管理費2,678,944、その他の費用48,308



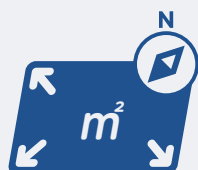
### 附属病院データ

#### 医療従事者数

医師 **754** 名、看護要員 **1,136** 名、薬剤師 **64** 名、臨床検査技師 **66** 名、診療放射線技師 **57** 名、  
臨床工学技士 **38** 名、理学・作業療法士 **42** 名、その他の医療技術職員 **54** 名、事務職員 **63** 名、  
研修医 **81** 名

#### 診療の状況

診療科数 **30**、病床数(一般 **875**)(精神 **108**)(感染 **9**)、手術室数 **15**、年間手術件数 **7,686**、  
入院患者数(1日平均) **643**、外来患者数(1日平均) **2,328**、平均在院日数 **10.8**



#### 土地面積

**220,568.57** m<sup>2</sup>

#### 建物面積

**143,181.28** m<sup>2</sup>



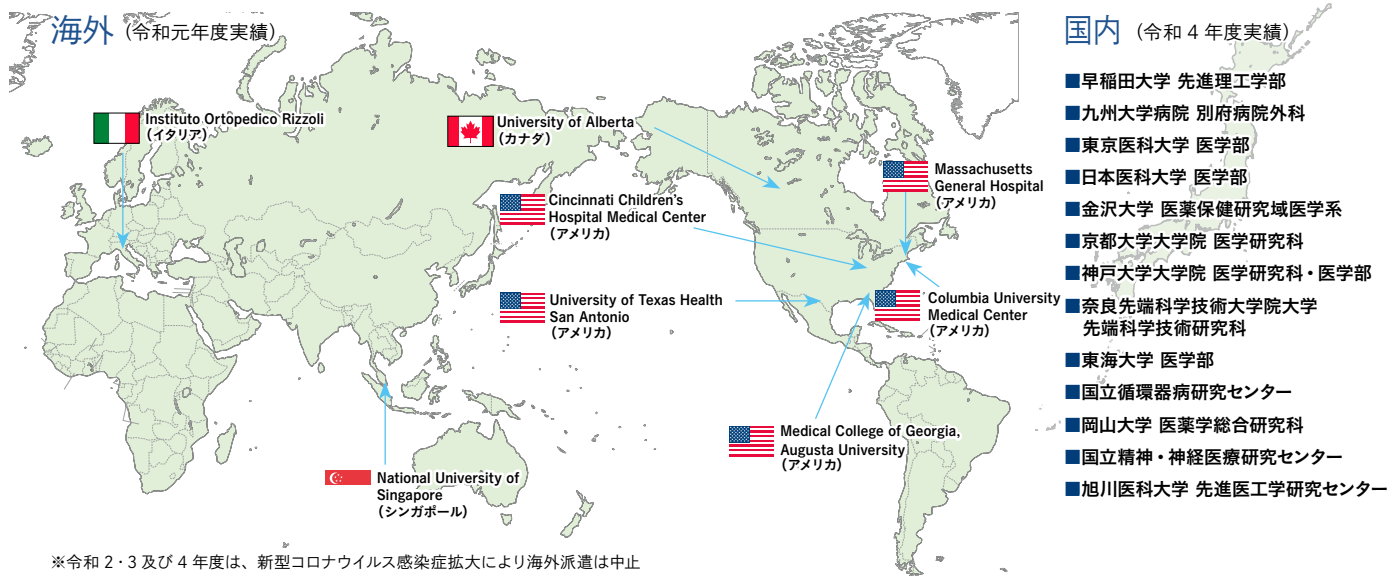
# 教育の理念

豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

## 本学独自の特色のある教育課程を実施

### 学生の学外実習を推進

本学では、約10週間、国内や海外の大学、研究機関に所属して実際に研究を行う「10週研究室附属実習」を推進しています。



### 臨床英語教育の強化

高い臨床英語力の修得を目指した英語教育の推進を行っており、英語を母国語とする教授・教員による医学・医療をテーマにした授業を行っています。

#### 【目的】

- 1) 医学・看護学の準備教育としての英語教育の実践
- 2) 4技能 (reading, speaking, listening, writing) の獲得
- 3) 学外研修のための impromptu と fluency



small group learning



hidden curriculum





## 医学看護学合同教育科目の実施

チーム医療の重要性の認識や医療人として必要なコミュニケーション力の養成等、他職種連携の基盤形成を目的として、医学科生と看護学科生が合同で学ぶ「次世代医療人育成論」や「奈良学」等の医看合同科目を1年次に計11科目開講しています。なお、令和6年度からは高学年次での医看合同科目「チーム医療論」を新たに開講する予定です。

### 【目的】

- 1) 医学科と看護学科の学生が共に学ぶことで、多職種連携の基盤を形成する。
- 2) 他者と協働関係を結ぶ中で必要なコミュニケーション力とは何かを考え、それらを身につけるための理論と実践方法を学ぶ。



「次世代医療人育成論」人権教育



「奈良学」病院見学

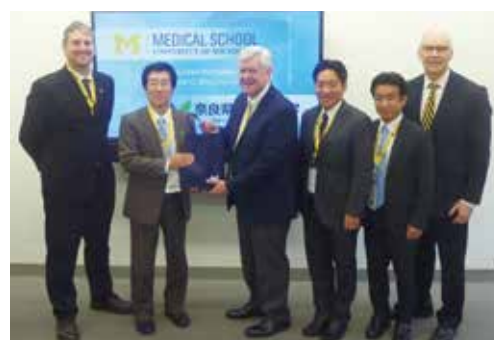
## 医学研究科博士課程に「本学とミシガン大学を代表するミシガン大学評議会との学術科学連携に関する基本合意書」に基づき NM コースを設置

2018年12月13日、ミシガン大学医学部と医学的教育と科学的研究における協力を目的とした学術科学連携基本合意書を締結しました。

2019年3月から、この基本合意書に基づき、医学研究科博士課程にミシガン大学関連の研究や講義等を行う NM コースを設置し、国際的な視野を持つ研究者の教育にも力を入れています。

### 【NMコースを設置している科目】

- 免疫学（免疫学教室）
- 運動器再建医学（整形外科教室） ※括弧内は本コースを設置している教室名



基本合意書締結の様子

# 研究の理念

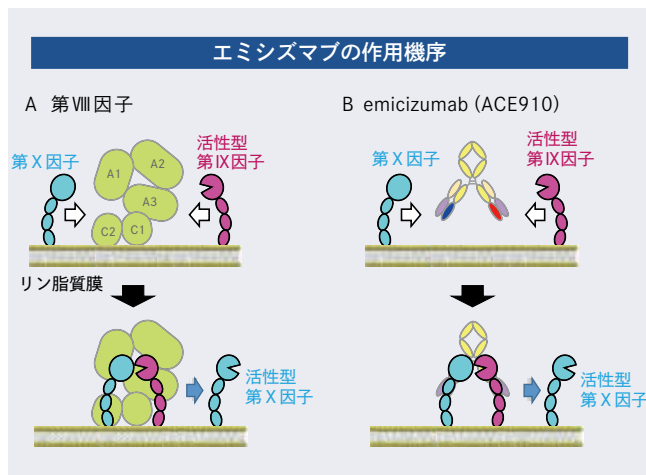
研究の成果を患者への最善の医療に生かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。

## 日本を、世界を牽引する研究

### 血栓止血の制御に関する研究

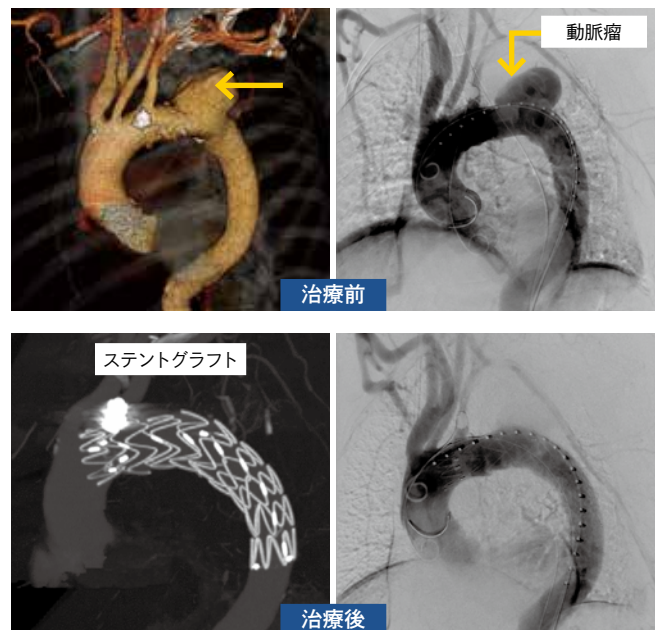
本学では半世紀以上にわたり血栓止血学分野の研究を行っています。中でも血友病の病態や治療に関する研究については国内のみならず海外を常にリードしています。最近、産学共同開発により、血友病A新規治療製剤であるバイスペシフィック抗体製剤（エミシズマブ）を開発しました。本製剤は完全ヒト型遺伝子組み換え抗体製剤で、活性型第IX因子と第X因子を架橋して活性型第VIII因子作用を発揮するものです。半減期が30日と極めて長く、1～4週に1回の皮下投与で凝固機能を維持できる画期的な製剤です。本学小児科を中心に第1/2相臨床試験を行い（Shima M et al. *N Engl Med* 2017）、国際第3相臨床試験において、その有効性と安全性が確認されました（*N Engl J Med* 2018, 2019）。

本製剤の登場により、血友病A治療のパラダイムシフトが世界中で起こっており、すでに100か国以上、20,000人以上の患者さんに使用されています。



### 画像下での低侵襲医療に関する研究

本学は、エックス線透視像やCT像、超音波像を観察しながら体内に細い管（カテーテルや針）を入れて病気を治す新しい治療法であるIVR（画像下治療）の発祥の地です。全国に先がけて肝細胞がんに対する動脈塞栓術（TACE）や胆管や消化管、閉塞性動脈硬化症に対するステント治療、大動脈瘤に対するステントグラフト治療など、種々のIVRを開発・施行し、各種の治療も行い、全国への普及につとめています。附属病院にはIVRセンターを設置し、国内外でトップレベルの症例数と治療内容を誇っています。



IVRによる胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療



## MBT (Medicine-Based Town) 医学を基礎とするまちづくり

MBT活動の一環として、難病克服支援MBT映画祭の開催や、ベンチャー企業設立支援、共同研究による商品化支援などを行っています。



# 奈良医大発、世界へ

## MBT ～医学の力を産業創生、まちづくりに～

医師が有する膨大な知識を、患者さんの治療だけでなく広く産業に応用する、それが「医学を基礎とするまちづくり」～MBT (Medicine-based Town) の取り組みです。この発想を実現するために、2016年には一般社団法人MBTコンソーシアムを立ち上げました。現在約200社の民間企業・団体の参加を得て活動を行っています。

MBTコンソーシアム [検索 https://mbt.or.jp](https://mbt.or.jp)

業種	MBTコンソーシアム会員	企業数
建設	(株)イムラ、(株)奥村組奈良支店、(株)崎山組、積水ハウス(株)、大和ハウス工業(株)、大和リース(株)、(株)松田平田設計、他	15
食品	江崎グリコ(株)、(株)大阪王将、春日井製菓(株)、カバヤ食品(株)、カンロ(株)、タヒボジャパン(株)、UHA味覚糖(株)、他	9
繊維・パルプ・紙	(株)イムラ、(株)島田、(株)新生、住江織物(株)、帝人フロンティア(株)、東洋紡(株)、(株)三笠、モード・ユニット工房(株)、他	14
化学	旭化成(株)、石原産業(株)、SBカワスミ(株)、積水マテリアルソリューションズ(株)、(株)テクノブル、山本商事(株)、他	8
医薬品	クオール(株)、佐藤薬品工業(株)、塩野義製薬(株)、積水メディカル(株)、中外製薬(株)、(株)ツムラ、ロート製薬(株)、他	9
鉄鋼・非鉄・金属	(一社)日本銅センター、丸一銅管(株)、三菱マテリアル(株)	3
機械	KTX(株)、(株)タカゾノ、(株)タカトリ、DMG森精機(株)、不二精機(株)、三菱重工パワー環境ソリューション(株)、ユニオンツール(株)、他	10
電気機器	(株)アイ・オー・データ機器、アイワ(株)、(株)オーディオテクニカフクイ、シャープ(株)、富士通Japan(株)、(株)村田製作所、他	16
医療・精密機器	エア・ウォーター(株)、キャノンメディカルシステムズ(株)、大研医器(株)、テルモ(株)、凸版印刷(株)、ニプロ(株)、他	16
その他製造	あけぼの化成(株)、(株)K&S、ケイミュー(株)、三友商事(株)、昭和西川(株)、(株)ゼノン、やまと真空工業(株)、レック(株)、他	19
商業	(株)電響社、(株)農業総合研究所、(株)Yu Vision	3
金融・保険	城南信用金庫、損害保険ジャパン(株)、東京海上日動火災保険(株)奈良支社、(株)南都銀行、日本生命保険(相)、(株)三井住友銀行、他	7
運輸・倉庫	近鉄グループホールディングス(株)、五條メディカル(株)	2
情報・通信	(株)NTTデータ経営研究所、近鉄ケーブルネットワーク(株)、Takusu(株)、(株)産業経済新聞社、西日本電信電話(株)奈良支店、(株)日本経済新聞社、ピクシーダストテクノロジーズ(株)、(株)プロアシスト、(株)三菱総合研究所、(株)読売新聞大阪本社、他	13
電力・ガス	大阪ガス(株)、関西電力(株)、(株)関西エネルギーソリューション、大和ガス(株)、奈良電力(株)	5
サービス	(株)アデランス、ALSOK昇日セキュリティサービス(株)、(株)健康都市デザイン研究所、セコム(株)榎原支社、大和リゾート(株)、(株)ディー・エヌ・エー、(株)ドトールコーヒー、(株)奈良ホテル、(株)日経アドエージェンシー、(株)ローソン奈良支店、他	31
公共・その他 (自治体、大学、病院)	(医)梅華会、橿原市、東急(株)東急病院、(一社)奈良経済産業協会、奈良県、奈良県立医科大学、奈良友誼会病院	7



## 診療の理念

患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。

## 病院機能の充実

各種基準を満たし指定・承認等を受けることにより、奈良県の基幹病院としての機能を充実させています。

### 高度医療の提供 特定機能病院

一般医療機関では実施することが難しい手術や高度先進医療などの先進的な高度医療を、高度な医療機器、充実の施設の中で行うことができる奈良県唯一の病院です。



### 地域の命を守る 災害拠点病院

当院は緊急事態に24時間対応し、災害発生時に被災地内の重症の傷病者を受け入れ、また、搬送し、医師団を派遣するなど、地域の医療活動の中心となる機能を備えた病院です。



### 地域の急性期・救急医療において重要な役割を担う 高度救命救急センター

本学高度救命救急センターは中南和地域の唯一の三次救急医療施設として、奈良県全域からの重症患者を24時間体制で受け入れています。救命センターには三次救急を中心に様々な救急患者が搬送され、その対象は内科系、外科系、中毒、熱傷など、広範な領域にわたっております。



施設認定一覧(一部) ●第一種・第二種感染症指定医療機関 ●基幹型臨床研修病院 ●特定承認保険医療機関(高度先進医療) ●エイズ中核拠点病院 ●精神科救急医療施設 ●都道府県がん診療連携拠点病院 ●がんゲノム医療拠点病院 ●肝疾患診療連携拠点病院 ●総合周産期母子医療センター ●認知症疾患医療センター(基幹型) ●腎臓移植施設 ●日本医療機能評価機構認定(3rdG:Ver.2.0) 各種学会からの認定も多数





## 高度医療の提供

専門的な治療や高度な検査、手術等を行い、奈良県の基幹病院としての役割を果たします。



放射線治療用リニアック (True Beam STx)

高精度の強度変調放射線治療 (IMRT)、画像誘導放射線治療 (IGRT) などで、最先端のがん治療を実施しています。



ハイブリッド手術室

ハイブリッド手術室とは、手術台と心・血管X線撮影装置を組み合わせた手術室のことです。2つの機器を組み合わせることにより、最新の医療技術に対応します。



PET/CT装置 (Discovery IQx)

がんの病期や再発・転移の診断に主に用いられる画像診断装置です。検出器幅が長い最新型で、短時間で高品位の画像を収集でき、呼吸同期収集による画質向上も期待されます。



ダヴィンチXi  
(内視鏡手術支援ロボット)

ダヴィンチは最先端の手術支援ロボットです。1~2cmの小さな創より内視鏡カメラとロボットアームを挿入し、高度な内視鏡手術を可能にします。

## 快適な院内空間

患者さんが過ごす空間を少しでも快適なものにするために院内は明るくあたたかい雰囲気となるように努めています。



小児センター



スタッフステーション



カフェ/休憩エリア

## 地域交流・イベント

心と体の健康情報発信基地として地域の方々とふれあえる時間を大切にしています。

養護学校の生徒たちの作品を院内廊下に展示するアート展や、院内コンサート、各種公開講座を実施しています。



学校と病院を結ぶアート展



# 奈良県立医科大学の キャンパスが生まれ変わります

本学は、建物の老朽化・狭隘化に対応するため、約1km南西に位置する新キャンパス（旧奈良県農業研究開発センター敷地）に教育・研究部門を移転し、現キャンパスにおいては、附属病院のさらなる充実を図ることとしています。新キャンパスは藤原京をモチーフとしたゾーニングとデザインを取り入れることとし、平成31年3月に新キャンパス整備基本計画書を策定しました。先行整備として、教養教育部門と看護学科の施設の令和6年度の完成を目指しています。

## 新キャンパスの整備



新キャンパス正面イメージ



両キャンパスの位置関係



新キャンパス鳥瞰イメージ



# 奈良県立 医科大学の変遷



本学は県内唯一の医師養成機関として、わが国の歴史発祥の地、橿原市に昭和20年に設立されました。医学科は開学以来、約80年の歴史を持っています。

本学は長く、医学部医学科のみの単科医科大学として発展して参りましたが、平成16年には4年制の看護学科を新設し、1学部2学科の医科大学としてさらに発展を続けています。

また、平成19年には、公共性と公益性を確保しながらより効率的な運営を行うことができるよう、公立大学法人奈良県立医科大学となりました。

- |          |  |          |                               |
|----------|--|----------|-------------------------------|
| 1945. 04 | 奈良県立医学専門学校設立<br>奈良県立医学専門学校附属病院開設<br>(8診療科215床) | 2012. 04 | 大学院看護学研究科修士課程設置               |
| 1947. 07 | 奈良県立医科大学(旧制)予科開校                               | 2015. 05 | 開学70周年記念式典挙行                  |
| 07       | 奈良県立医科大学附属病院に名称変更                              | 2016. 09 | 附属病院 E棟竣工                     |
| 1948. 04 | 奈良県立医科大学(旧制)学部開設                               | 2017. 04 | 「奈良県立医科大学の将来像」の策定             |
| 1952. 04 | 奈良県立医科大学(新制)開設                                 | 04       | 法人のシンボルマーク及び<br>イメージキャラクターを制定 |
| 1955. 04 | 奈良県立医科大学附属高等看護学校開校                             | 2018. 02 | 附属病院にドクターヘリポート竣工              |
| 1960. 04 | 大学院医学研究科博士課程設置                                 | 2024. 04 | 大学院看護学研究科博士後期課程設置予定           |
| 1977. 04 | 附属高等看護学校を附属看護専門学校に<br>名称変更                     | 2025     | 新キャンパス開学予定                    |
| 1994. 03 | 大学の理念及び目的を制定                                   |          |                               |
| 1996. 02 | 附属病院が特定機能病院の承認を受ける                             |          |                               |
| 04       | 看護短期大学部開学                                      |          |                               |
| 2004. 04 | 医学部看護学科開設                                      |          |                               |
| 2007. 04 | 公立大学法人奈良県立医科大学へ移行                              |          |                               |
| 2008. 04 | 大学院医学研究科修士課程設置                                 |          |                               |



(しょうとくた医師くん)

法人のシンボルマーク、イメージキャラクター

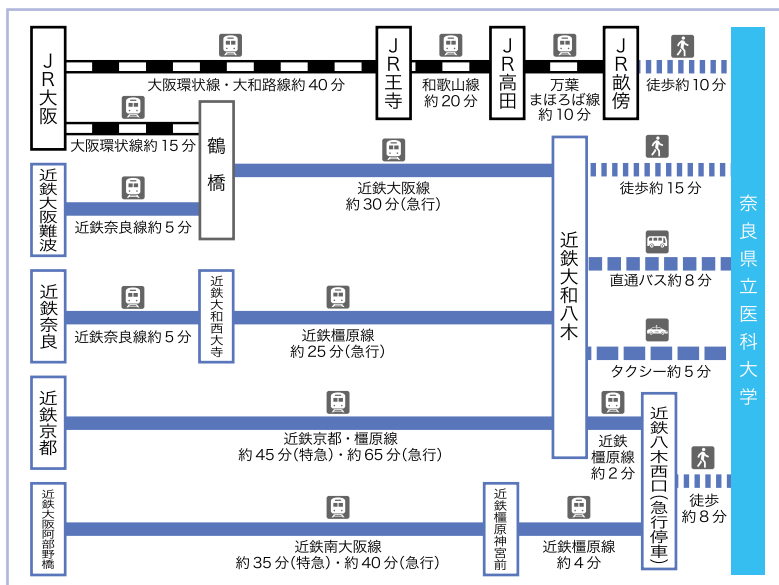
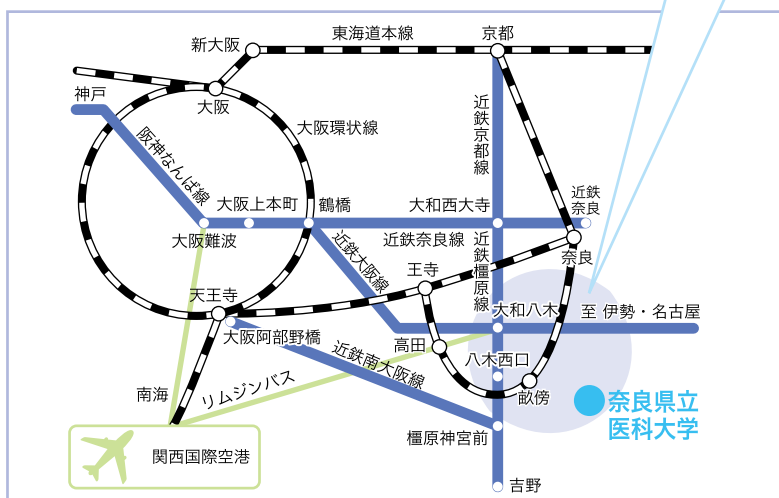
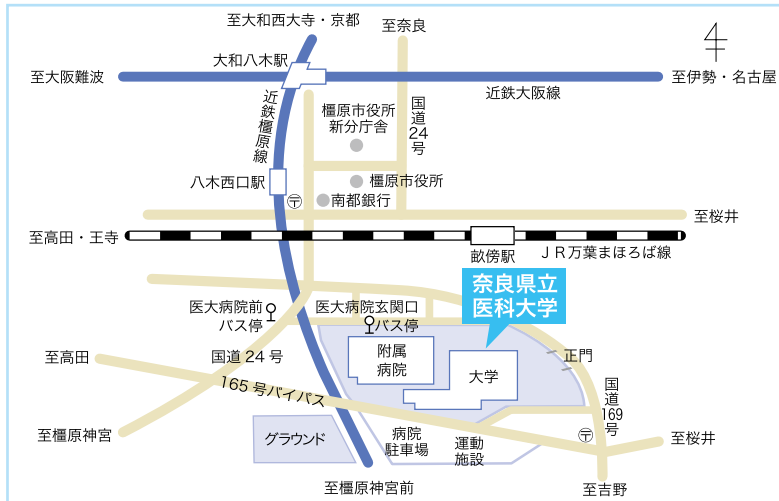


1965年ごろの全景



2018年の全景

# 交通のご案内



〒634-8521 奈良県橿原市四条町840番地  
 TEL 0744-22-3051  
 URL <https://www.naramed-u.ac.jp/>